

## 22. 普門院・地蔵河岸の常夜燈

### (1) 普門院

宗派：真言宗豊山派。本尊：船越地蔵菩薩

普門院の創建等は判然としませんが、本尊の船越地蔵菩薩は縁起によれば建長4年（1252年）真言律宗の高僧忍性（にんじょう）は鹿島神宮に在り、神宮の神木の南枝をもって地蔵を刻み、これを永く洲崎に安置すれば、天下泰平、国土安寧となるであろうとの神託を受け一刀三禮の尊像三体を彫刻し、三ヶ所へ安置したといわれています。

そのうちの一体が普門院の船越地蔵尊です。残り二体は大船津の普渡寺と宮中の普濟寺に安置されたといわれています。

当時この付近の水域は常に渦巻く荒川で、洪水などで海水が逆流するため鰐（鮫）が住みつき「鰐川」とも呼ばれました。渡船が襲われて非常に危険であったため、困った村人が鹿島社へ祈願すると、ある日鹿島社よりお告げがありました。翌日一人の僧が川辺にたたずみ水上に向かい読経すると、にわかに鰐の群れが出現し回りながら海へ流れ去りました。感動して人々が僧の後をつけたところ、普門院の地蔵堂へ姿が消えたといわれています。

船越地蔵の縁起は、この地域が昔から水運の盛んなところであることを伝えるとともに、そのような環境の中で、社会慈善事業に尽くした忍性の姿を想起させてくれます。

普門院地蔵堂は天和3年（1683年）に建てられた建物で、元は潮来村にあったものを水戸藩2代藩主徳川光圀公の指示でこの地に移築されたもので、木造平屋建て、桁間3間、梁間3間、寄棟、銅板葺、正面に唐破風の向拝が付いています。

一重屋根の割に高さがあり建物全体が朱色に塗られ欄間部分には四周、中国故事を模したと思われる精巧な彫刻が彫り込まれています。唐破風の欄間部も同様な彫刻が見られ木鼻には獅子が彫り込まれています。内部には本尊である船越地蔵菩薩が祀られています。

建築細部の様式は、室町時代末期の特色が見られ、来迎柱の裏面には朱書きで遊女70名の名前があるなど民俗的にも価値がある建物で平成5年（1993年）に潮来市有形文化財に指定されています。山門は切妻、桟瓦葺、一間一戸、薬医門木部朱塗。



薬医門



地蔵堂

## (2) 地蔵河岸の常夜燈

造立は文政元年（1818年）8月。200年以上前のもので、現存する市内の常夜燈では最も古いものです。洲崎前の水路は、古来より水難事故が多く、洲崎地蔵堂は信仰の対象として崇拝され、その灯籠は夜間航行上ののみならず、人々の生活の上でも重要な役割を果たしました。

昭和25年頃までは、地蔵河岸は前川に面し、東側と南側に30m余りの防波堤がハの字型に整備され、その奥にU字状に50m程の船着き場がありました。

数多の物資を積んだ貨物船や高瀬舟が出入りし、米俵・筵（むしろ）・かます・薪炭等が積み出され、肥料・稻・醤油粕等が荷揚げされ賑わいを見せていたとのことです。

昭和30年代後半、前川の干拓事業が始まるとともに、その役目を終え、変貌した跡地からは当時の面影はなく、この常夜燈が地蔵河岸の名残を僅かに留めています。

（潮来市文化財に指定）

常陸風土記の時代（奈良時代）には玉造にある曾尼駅家（そねのうまや）から大生神社・延方小を結ぶ「古代道」を推定すると、ここは古代からの重要な港であったと推定されます。

